

第 1 回 十勝川流域委員会 議事要旨

日時:平成20年2月5日(火)13:00~16:30

場所:ホテル日航ノースランド帯広 D ホール

出席者:石原委員、泉委員、加賀屋委員、黒木委員、佐々木委員、藤巻委員、丸山委員、
山崎委員 計8名

議事要旨

1. 設立にあたって
2. 委員の紹介
3. 委員長の選出 委員長に北海道大学加賀屋教授を互選
(また副委員長は委員長の指名により黒木委員に決定)
4. 議題

(1)十勝川流域委員会の運営要領について

十勝川流域委員会運営要領(案)が了承された。

(2)十勝川水系河川整備計画策定の流れについて

十勝川水系河川整備計画の流れについて事務局から説明した。

(3)流域及び河川の概要について

十勝川流域の特徴と課題について事務局から説明し、これに対し、委員から以下の発言があった。

- ・ 小学生や高齢者を対象とした総合学習の経験を通して感じたこととして、十勝川の歴史や文化等、昔を振り返ることも必要である。
- ・ 「流域」と「水系」の違い、「洪水」と「水害」の違い、「急流河川の定義」、「河川の流下能力」の言葉の意味について説明していただきたい。
- ・ 十勝川は地域住民の活動が特色であり、表に出ていない住民活動も多くある。十勝エコロジーパークの説明に、その根底にあった住民活動についても言及するべきである。
- ・ 十勝川流域を軸とするエコツーリズム等に関しても言及していただきたい。
- ・ 農業だけでなく、林業等の山の状況や漁業についても説明していただきたい。
- ・ 流域の湿潤状況にも関連するため、昭和56年8月洪水がいつ発生したのか(上旬なのか、下旬なのか)、もう少し詳しく時間を示していただきたい。
- ・ 昭和56年8月洪水が最大の洪水のようだが、下流域の氾濫は、より流量の小さい昭和63年と平成10年洪水の方が大きい理由を説明していただきたい。
- ・ 札内川の急流河川工法として、水制工だけでなく、もう一つの特徴である霞堤についても説明していただきたい。
- ・ 農業用の取水施設について、その役割やかんがい区域を示していただきたい。
- ・ 直轄ダムの年間運用方法について説明していただきたい。

(4)十勝川水系河川整備基本方針等について

十勝川水系河川整備基本方針等について事務局から説明し、これに対し、委員から以下

の発言があった。

- ・ 水系一体の整備との表現があるが、上流のほとんどが国有林であり、森林管理局との連携が必要となる。計画を具体的に進める際には、こうした機関との連携をとって実施していただきたい。

(5) 十勝川水系河川整備計画の策定に向けて

十勝川水系河川整備計画の策定に向けて事務局から説明し、これに対し、委員から以下の発言があった。

- ・ 流域全体として議論するのか、個別の支川毎で議論するのか、方向性を決める必要がある。重要なおとこに関しては、例えばその都度支川について議論することも必要ではないか。
- ・ 急流河川として、札内川、音更川が課題として挙げられているが、十勝川本川や利別川の課題も示していただきたい。
- ・ 河川整備計画策定に向けて、財源の問題をどのように扱うのか、触れられていない。基本理念の4項目についても、その相互における優劣等の位置関係を理解した上で進めていくべきではないか。
- ・ 基本理念に「食料供給地への貢献」とあるが、畑作地帯の水利用は、将来大きく変わる可能性がある。このような状況も踏まえ、まずは現状の水利用を明らかにすべき。
- ・ 基本理念の「食糧供給地への貢献」とあるが、(1次産業だけでなく)2次産業にも貢献できるのではないか。
- ・ 基本理念の「食料供給地への貢献」には、食品加工産業への貢献も入るべきではないか。また、農業について、「量」の話だけではなく、環境に配慮した農畜産物の生産や加工を実施している点を考慮すべき。
- ・ 河川環境を動物の生息場所として見た場合、河畔林だけでなく、草原や河原などにしか棲めない動物もいるため、多様な自然環境の保全という見方をすべき。
- ・ 河川整備基本方針は、流域全体の将来図を示す役割を担っていると認識している。河川整備計画は、大臣管理区間に限定されているものの、大臣管理区間以外の水害の状況等の説明をいただき、流域全体を議論した上で、大臣管理区間の計画として収斂する形をとるべき。
- ・ 想定している500年間隔地震の津波について、地震により堤防が被災しなければ、多少、樋門から溢れても、川からは溢れず、被害は小さいのではないか。(「十勝川水系河川整備計画の枠組み」の地震・津波による被害の防止・軽減対策として、樋門の自動化・遠隔化とあるが、)もう少し説明していただきたい。
- ・ 「十勝川水系河川整備計画の枠組み」の維持管理に、サイクル型維持管理とあるが、目標達成のための評価指標を設定する必要があるのではないか。
- ・ 景観について、現状認識だけでなく、これから整備計画により整備をしていく箇所についても、将来的な目標を据えて景観を考えていく必要があるのではないか。

以上